



印刷を軸とした「付加価値創造・情報・コミュニケーション事業」へ

吉岡印刷株式会社 奈良県葛城市

吉岡印刷株式会社は、大正5年創業で当初は薬袋や小袋などの印刷を手掛けていた。1990年に3代目社長が関西で初めてMacを用いたDTPシステムを導入。ソフトの開発、販売を行うなど印刷業以外の分野にも事業を展開し、業界で注目を集めた。2017年に4代目社長の吉岡寛人氏に交代してからは、DTP・印刷業務の全国展開や企画からデザイン、印刷、さらにはWEBコンテンツなどの広報宣伝まで全てをワンストップで行う独自性を強みに、情報分野やコミュニケーション分野にまで業務の広がりを見せている。また、「会社は、社員や関わる人すべてが幸せで豊かになれる場所となり、お客様や社会に貢献し続けることが大切」と社員教育にも力を注ぐ。常に謝恩と報恩の精神を忘れず、目の前のお客様だけではなく、さらにその先のお客様へと「ご縁」を作り続ける。

会社概要



会社名：吉岡印刷株式会社
 所在地：奈良県葛城市柿本129
 電話：0745-69-2032
 FAX：0745-69-6315
 創業：1916（大正5）年
 設立：1975（昭和50）年
 代表者：代表取締役社長 吉岡 寛人
 資本金：1,000万円
 従業員：37名
 事業内容：各種印刷、デザイン・広告・
 広報物制作、各種クリエイティブ制作、webサイト制作、映像制作、地域・企業ブランディング、鉄道会社グッズ企画制作、各種紙プロダクト製造
 URL：<https://yoshioka-insatsu.co.jp>



本社：古民家を改装した古民家クリエイティブオフィス

情報分野やコミュニケーション分野へサービスを拡大

吉岡印刷株式会社は、1916年に奈良県葛城市で創業。製菓業が盛んな地域であったため、当初は薬袋や小袋の印刷を手掛けていた。また荷札や封筒の印刷に携わることにも恵まれた。1940年代には、大阪の印刷会社が空襲で壊滅的な状態になったことをきっかけに、鉄道会社の印刷を引き受けるようになり、その後自治体や地域の中小企業などの印刷物に拡大していった。印刷業だけでなくMacを活用した印刷の工程管理や原価管理を行うソフトの開発、販売にまで発展し、業界で注目を集めた。

2017年に現社長吉岡寛人氏が経営を引き継いだからは、貢献先が全国拠点や東京の顧客等に広がった。また印刷業だけにとどまらず、情報分野やコミュニケーション分野全般にサービスを拡大している。企業や地域のブランディング、中小企業のコンセプトやロゴの開発、動画制作、採用支援（採用専用ホームページ等）の作成などに力を入れており、業務は多岐にわたる。

企画から制作、広報支援までをワンストップで受託

同社の強みの一つは、企画からデザイン、印刷まですべてをワンストップで請け負える点だ。例えば、鉄道会社の企画記念グッズの場合、依頼を受けると、企画書プレゼンからサンプル製造、不正防止処理等を施して印刷、セット作業迄を行う。業務はそれだけにとどまらず、さらには中吊りポスターやWEBコンテンツの制作など広報支援まで行うこともある。これらすべてをスピーディに一気通貫して同社で行うため、顧客が求めていることを同じ目線で感じることができ、顧客側も依頼がワンストップで済む。



記念企画グッズやペーパークラフトなどの鉄道関連グッズ

「特別なことは何もなく、我々が企画したことを形にすると相手が喜んでくれる。そこからご縁が生まれ、おかげ様で仕事が広がっていった」と吉岡社長は話す。そんな“ご縁”を大切に同社の社風が「地域や中小企業のブランディング事業」へもつながっている。企業の場合は、現地取材や撮影を通して会社の強みや課題、ターゲットとなる顧客の分析などを行い、先方の経営者等と細かいミーティングを重ねる。完成までの期間も1〜3ヶ月と短期間でスピード感を持って取り組むことができる。その後、ブランディング（コピーやビジュアル化、紙・WEB・映像・SNS等での情報発信）も実施していく。紙媒体だけでなく、様々なデジタル媒体を含めて提案を行うことで顧客からの信頼も大きい。

VRや360度コンテンツ、地方創生メディアで地域の魅力を全国に伝える

同社では現在、VR（Virtual Reality、仮想現実）や360度コンテンツの案件に取り組んでいる。これは、例えば神社仏閣の立像をVRで再現することで、通常は近づくことができず確認できないような細かな細工を真近に見ることができたり、中小企業の工場やオフィス内を就職希望者に360度動画で見せて、より自社を知ってもらうこともできるコンテンツだ。またネット通販の際、商品を3Dで全方向にクルクル回して買い物できる。さらにヘッドセットを組み合わせると、リアルとバーチャルを融合させたMR（Mixed Reality、複合現実）となり、レンズを通したリアルの世界にバーチャルで補足説明を付けることなどが可能

になる。「このコンテンツを制作することにより、県内だけでなく全国や海外にまで地域観光の魅力や中小企業の商材、ECサイトの商品、モノづくりの現場の魅力等を伝えることができる」と吉岡社長は大きな期待を寄せている。



工場内360度動画の様子

これまでない体験を通して魅力を伝えることができるVRや360度動画 さらにネット上の地方創生メディア『HUG NARA』（2021年10月初旬ローンチ予定）では、地方創生分野で地元奈良に貢献するため、地域情報や企業情報、住まいと暮らしなどについて取り上げ、閲覧者が情報によるメリットを得ると同時に奈良にIターンUターンをするきっかけづくりを狙う。「人口は減少していく。放っておけば日本の地方は衰退する。この社会課題を本業の中で解決しようと考えた」という吉岡社長の強い思いがこの事業につながった。

『付加価値創造（クリエイティブ）カンパニー』へ

同社は、ただの印刷業ではなく印刷周辺の紙製品やグッズ製作等も含めた付加価値創造事業を目指している。他にも各種ブランディング、デジタルクリエイティブやVR領域を含むコミュニケーション事業、メディア運営等の情報事業にも力を入れる方針だ。「イムラ封筒さんをはじめ永くご縁のある先、数々のお客様や仕入先さん、今までお世話になっている皆様に感謝し、報恩の気持ちでより貢献していきたい。そのためにも私をはじめ全社員の技術力、人間力の向上、成長が必要だと考え共育活動に取り組んでいます。印刷業務を大切にしつつも、新たなチャレンジをする事が、更に顧客や社会への貢献につながると信じている」と吉岡社長は今後のビジョンを熱く語る。（村井 渚、八木陽子）